



We Secure the Future

思いをかなえる 技術で見つめる 確かな未来



環境報告書 2011 GLORY GREEN CHALLENGE



この報告書は、FSC™認証紙と植物油インキを使用し、水なし印刷を採用しています。

グローリー株式会社

〒670-8567 兵庫県姫路市下手野1-3-1
TEL(079)297-3131(代表) FAX(079)294-6233
www.glory.co.jp

本報告書に関するお問い合わせ
品質・環境推進部 環境管理グループ
TEL(079)297-8952 FAX(079)297-3124



グローリー株式会社

全社員がCHALLENGEして地球環境の "確かな未来" を実現します



このたびの東日本大震災によって被災されました方々には、心よりお見舞い申し上げます。当社グループは、みなさまの安全と一日も早い復旧をお祈り申し上げます。

地球温暖化や資源の枯渇、さらに生物多様性の減少など、環境問題は年々深刻化しており、地球規模での取組みが求められています。さらに、震災の影響で電力需給の問題が取りざたされる中で、当社グループは省エネルギーをはじめとしたさまざまな課題に、企業市民として真摯な姿勢で取り組んでまいります。



2011年度は、当社が2009年度から3カ年計画で推進している「2011中期経営計画」の最終年度です。当社は、ここに掲げたビジョン「GLORYを世界のトップブランドに！」を実現するため、さまざまな施策を推進しております。環境面では、「環境負荷の低減及び資源保護への積極的な取組み」を掲げ、環境方針の二本柱に据えた「グリーンファクトリー、グリーンオフィスの推進」と「環境に配慮した製品の提供」を軸に活動を進めてまいりました。

さらに、当社グループは、2010年度に「GLORY GREEN CHALLENGE みんなの力と技術で導く豊かな地球」をスローガンとし、新たに環境ビジョンを策定いたしました。環境ビジョンでは、社員一人ひとりの「意識」の向上をベースに、「製品」と「事業」の二つの観点から環境活動に取り組むことを明確にいたしました。その中に4つの活動テーマを掲げ、重点的に取り組んでおります。特に、地球温暖化の防止、省エネルギーは、喫緊の課題であると認識しており、当社は、製品の省エネルギー化によるお客様の省エネルギー活動のサポート、及び事業活動における環境負荷の低減を企業の責務と考えております。また、化学物質管理や省資源も、メーカーにとって重要

な環境課題です。さらに、社会の公器として、生物多様性保全にも取り組まねばなりません。当社は環境ビジョンの下、こうした課題に社員一丸となって "CHALLENGE" を続けてまいります。

グローリーは今後とも環境経営のさらなる浸透に力を尽くし、地球環境の "確かな未来" のために全社一丸となって取り組んでまいります。

企業理念

私たち「求める心とみんなの力」を結集し、セキュア(安心・確実)な社会の発展に貢献します

経営理念

- 絶えざる開発の心で、お客様から信頼される製品とサービスを提供します
- 個性の尊重とチームワークにより、活力ある企業グループをつくります
- 良き企業市民として行動し、社会との共存・共生に努めます

ビジョン

GLORYを世界のトップブランドに！

トップブランド イメージ

お客様／信頼される商品・サービスの提供

株主／健全な企業活動を通じた利益創出と適正な株主還元。迅速で的確な情報開示

社員／働きがいのある企業

取引先／公正・透明な取引の徹底による相互信頼の醸成と共存共栄

地域社会／奉仕活動を通じた社会発展への貢献

環境／環境負荷の低減及び資源保護への積極的な取組み

企業メッセージ

We Secure the Future

思いをかなえる 技術で見つめる 確かな未来



代表取締役社長
尾上 広和

「製品」と「事業」の二つの観点から環境負荷低減にCHALLENGEします

「環境負荷の低減及び資源保護への積極的な取組み」は、当社が掲げたトップブランドイメージの一つです。社員一人ひとりの意識のイノベーションをもとに、新たに策定した環境ビジョンの実現を目指します。

グローリー環境ビジョン



環境負荷の低減と地球資源の保護をグローバルに展開し、
地球環境の“確かな未来”に貢献します

グローリーグループ環境方針

私たちは地球にやさしい行動と環境に配慮した製品の提供に全員で取り組みます。

グローリーグループ(以下当グループ)は、貨幣処理機器、自動販売機、情報通信機器などの開発、生産、販売、保守及び物流を行っていることを踏まえ、環境保全活動を行います。

① 当グループの事業活動、製品及びサービスが
環境に与える影響を的確に捉え、環境汚染の予防を推進する。

② 環境監査を実施し、環境マネジメントシステムの
継続的改善を図る。

③ 当グループの環境側面に適用される法的要件事項、
及び当グループが同意するその他の要求事項を順守する。

④ 以下の項目を管理テーマとして取り組み、
目的・目標を定め、定期的にレビューする。

- ① グリーンファクトリー、
グリーンオフィスの推進
 - ・製品の省エネルギー
 - ・グリーン調達
 - ・省資源、リサイクル
 - ・化学物質の適正管理
- ② 環境に配慮した製品の提供
 - ・グリーンエネルギー、温暖化防止
 - ・省資源、リサイクル
 - ・化学物質の適正管理

⑤ 社会の環境活動に協力とともに、
社員一人ひとりが環境保全活動を通じて社会貢献に努める。

中長期的なビジョンの実現に向けて着実に活動を推進してまいります

当社グループでは、環境方針に基づき、さまざまな環境保全活動を推進しております。

2010年度は4月に省エネ法が改正され、当社自身がさらなる省エネルギー義務を課されるようになったばかりでなく、新たに法律の対象となった当社のお客様がいらっしゃいます。このような状況を踏まえ、当社はお客様の省エネルギー活動をサポートするため、環境配慮型製品の開発なお一層力を注いでまいります。また、「2030年に製品使用時のCO₂排出量を2005年比30%削減」という、製品の省エネルギー化の長期目標を達成するために、新たに開発する製品の消費電力量を当社従来機と比較して15%以上削減することを定めました。今後もグループ会社を含めた活動を推進してまいります。

さらに、2010年度は環境ビジョンを策定し、全社一丸となって環境保全に取り組む姿勢を明確に打ち出しました。現在、このビジョンに沿って、2012年度を初年度とする3カ年の中期環境活動計画を策定しております。今後は、社内報や朝礼などさまざまな機会を通じて、社員一人ひとりの環境に対する意識をより一層啓発し、自発的な行動に結び付けてまいります。

また、2010年10月に名古屋で「生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)」が開催され、生物多様性の保全がますます重要視されています。当社もこれを企業の責務であると考え、森林における保全活動を開始いたしました。2010年11月には、兵庫県姫路市の森林で社内関係者を対象として、活動の目的や方策に関する研修会を開催しました。この森林は社内公募を経て、「グローリー夢咲きの森」と命名しております。2011年4月には、第1回の活動となる森開きを開催し、当社グループの社員約50名が、植樹や除伐活動を行いました。

グローリーは環境ビジョンに基づき、環境配慮型製品の開発、事業活動の環境負荷低減や生物多様性保全に取り組み、社会への貢献を目指してまいります。

「グローリー環境ビジョン」を実現するための中期環境活動計画

活動分野	活動テーマ	活動内容
製品	地球温暖化の防止	環境配慮型製品の開発（2030年に製品使用時のCO ₂ 排出量を2005年比30%削減）
	化学物質の管理・削減	製品含有化学物質規制への対応（RoHS指令の順守、REACH規則への対応）
	資源の有効活用	省資源設計（コンパクト化・軽量化） リサイクル材を使用した製品開発 ライフサイクルアセスメント(LCA)の実施
事業	地球温暖化の防止	省エネルギー活動の推進（事業所、物流でのCO ₂ 排出量削減） 環境配慮型製品の提供
	化学物質の管理・削減	製造工程で使用する化学物質管理の徹底
	資源の有効活用	廃棄物総排出量の削減、再資源化率の向上 使用済み製品の回収と再資源化の推進
意識	生物多様性の保全	事業所周辺の里山保全活動
	環境意識のイノベーション	取引先への環境保全活動推進の要請 環境に関する社会貢献活動の推進

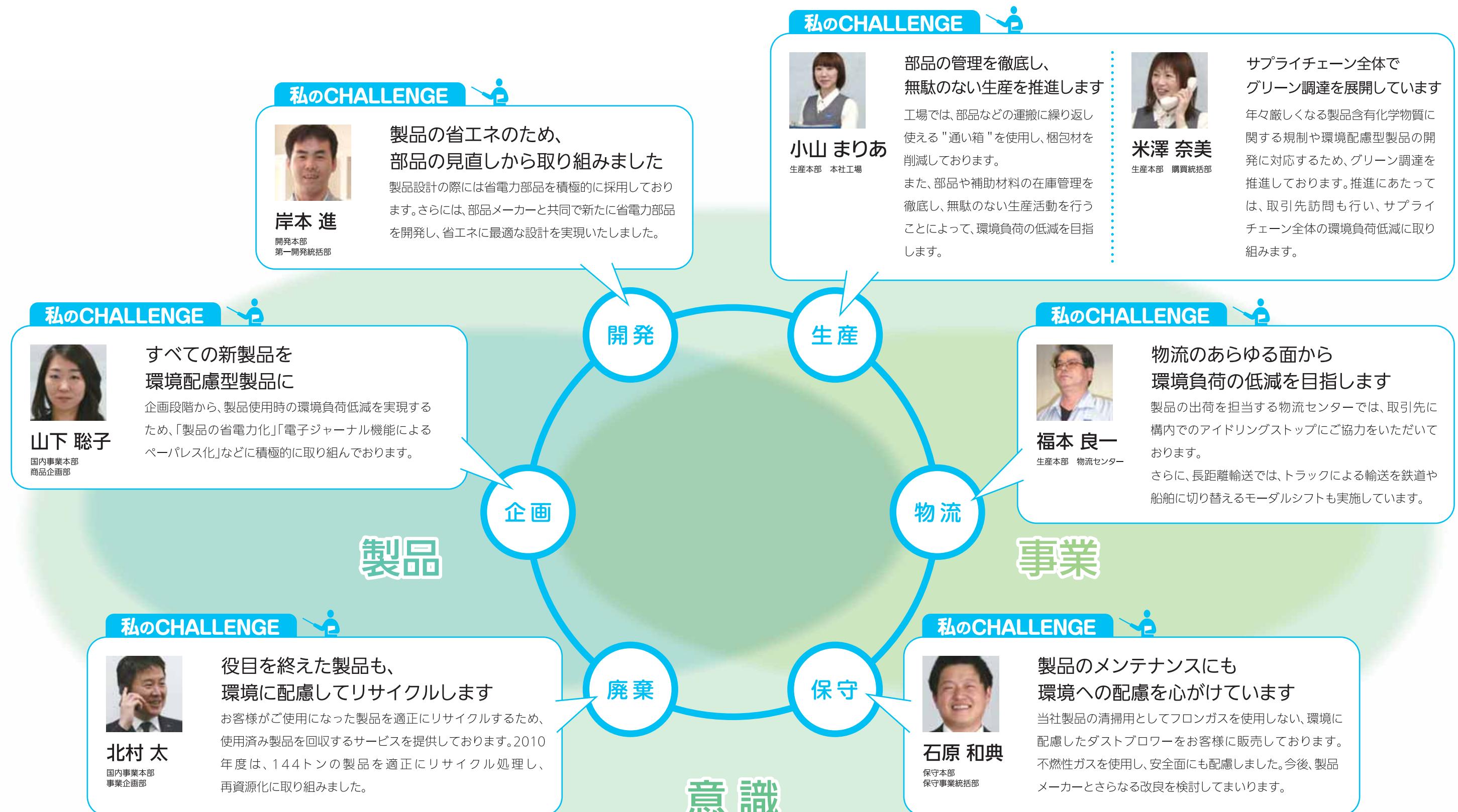


常務執行役員
環境マネジメント担当

松下 秀明

ライフサイクルのすべてでみんなのCHALLENGE

当社では、2010年に環境ビジョンを定め、「GLORY GREEN CHALLENGE みんなの力と技術で導く豊かな地球」をスローガンに、環境保全活動を推進しております。



各市場のニーズに応じた環境配慮型製品を提供いたします

グローリーは、2030年に製品使用時のCO₂(二酸化炭素)排出量を、2005年実績から30%削減することを長期目標として、低炭素社会の実現に寄与する製品の開発に取り組んでおります。

製品

金融 市場 コンパクトオープン出納システム <WAVE C30>

金融機関の店内における現金出納を1台で管理できるオープン出納システムのコンパクトタイプです。小型化によって金融小型店舗での設置が可能となり、全店での「オープン出納」を実現します。



CO₂排出量
15%^{*}
削減

海外 市場 紙幣入金整理機 <USF-100>

紙幣を速く正確に認識・識別・整理する製品です。金種単位ごとの仕分けや、偽札の排除、汚れた紙幣の選別などさまざまな処理に対応。金融機関での作業を低減します。



CO₂排出量
35%^{*}
削減

遊技 市場 一括玉計数機 <JBL-100>

キャスターで運んできたパチンコ玉の入った大玉箱を、そのまま機械にセットするだけで計数できる業界唯一の一括玉計数機です。箱を上部まで持ち上げる必要がないため、ホールスタッフの負担を軽減できます。



CO₂排出量
15%^{*}
削減

流通 交通 市場 紙幣入金機 <DS-600>

自動販売機オペレーターが回収した現金の受取・精算を自動化する無人受付型の入金機です。現金管理・精算に伴う事務負担を大きく軽減します。



CO₂排出量
15%^{*}
削減

私のCHALLENGE



川嶋 哲平

開発本部
第三開発統括部

攻めの開発で省エネを実現しました

「機能を追加すると、消費電力が上がる」、これが新製品開発時の課題の一つでした。しかし、<DSシリーズ>の新製品開発にあたっては、「機能は追加するが、消費電力は下げる」という目標にチーム一丸となって取り組みました。

試行錯誤を重ねた結果、待機状態が一定時間続くと駆動部の電源をオフにする「エコモード」を搭載することにより、待機時の消費電力を可能な限り削減。機能を追加しながら、消費電力を削減することができました。

今後も「速く・正確」なグローリー製品の魅力に「省エネ」も追加できるよう、環境配慮型製品の開発を続けてまいります。

製品アセスメントの見直しを行いました

当社では、2001年度から、製品の環境負荷を評価する製品アセスメントを実施しております。2009年度からは、「エネルギーの使用の合理化に関する法律」の改正に合わせて、製品の省エネルギー性に対する評価基準を厳格化するなど、アセスメント基準の定期的な見直しを行っております。

2010年度は、製品を評価する際に、よりお客様のご使用状況に沿えるように評価条件の見直しを行いました。製品の消費電力量は、1日の使用時間、使用頻度によって異なるため、より細やかな評価が必要と判断したためです。今後も、さらなる改善を重ね、環境負荷の低減を意識した製品開発を進めてまいります。

*数値はいずれも当社従来機比です。



事業

九州支店でLED照明を導入しました

当社の九州支店(福岡県福岡市)では、2010年11月に、室内の照明を蛍光灯からLED(発光ダイオード)に交換しました。LEDは、消費電力が蛍光灯の約1/2で、環境にやさしい照明として注目されています。さらに、白熱電球・蛍光灯よりも長寿命で、交換頻度の低減による廃棄物の削減にも貢献します。この照明のLED化により、支店全体の電力を、前年度同月比平均18%削減することができました。



九州支店でのLED照明

事業所構内の緑化を推進しております

当社は、事業所構内の緑化を推進しております。本社・本社工場(兵庫県姫路市)では、2010年度、工場の建て替えを機に、緑地を増設しました。構内の緑地は、事業所内の美化・緑化作業を担当する特例子会社のグローリーフレンドリー株式会社が管理し、職場環境の向上のため、花壇の整備などに取り組んでおります。増設した緑地には、当社が生物多様性保全活動を開始するにあたり、コナラなどの幼木も植樹いたしました。社内で育成後、「グローリー夢咲きの森」へ移植する予定です。

当社グループは、今後も緑豊かな事業所を目指して、緑化を推進してまいります。



植樹した苗木



グローリーフレンドリー(株)による花壇の整備

エコ安全ドライブ講習を実施し、環境・安全に配慮しております

当社は、主に営業活動や保守業務で社用車を使用しております。このたび、環境・安全教育の一環として、全国の7支店、1営業所でエコ安全ドライブ講習会を開催。2010年度は支店長、営業所長を中心に、社用車を使用する社員約100名が受講いたしました。環境に配慮した運転を行うことで、燃費向上によってCO₂排出量が削減されるだけでなく、ゆとりのある運転を心がけることができ、安全性の向上が期待できます。講習会では、発進時の基本操作「ふんわりアクセルスタート」や早めのアクセルオフといった実践的手法を、ビデオ講習を交えて学びました。講習内容は、ミーティングなどで受講者以外のメンバーにも指導し、CO₂排出量の削減や安全運転による事故の防止に努めております。



環境と安全に配慮して運転



エコ安全ドライブ講習会

私のCHALLENGE

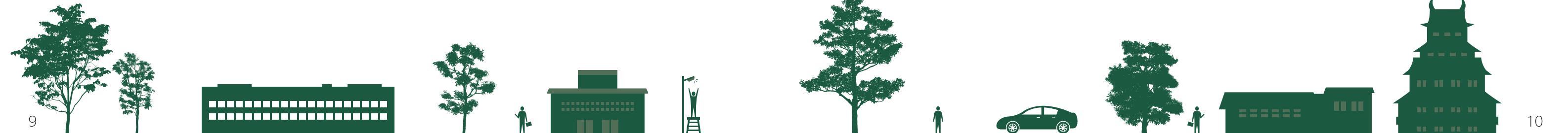


眞下 昌土
国内事業本部
支店業務部

環境・安全に配慮した運転を推進してまいります

当社では、以前より事故防止の観点から安全講習を行っておりましたが、「エコ安全ドライブを導入したところ事故率が半減した」という他社事例をきっかけに、今回新たに「エコ」という切り口からも講習を行うことにいたしました。

講習以前は、環境に配慮した運転が事故防止に役立つということがなかなか理解してもらえませんでしたが、講習を受けることでその有用性を認識していただけました。今後も社員が一体となって、環境に配慮した安全な運転を心がけてまいります。



意識

生物多様性保全活動を開始いたしました

生物多様性とは、地球上にさまざまな種類の生きものが存在することです。地球の生きものの多様性を維持していくために、その保全が求められています。

当社では、兵庫県姫路市夢前町にて、2011年4月から生物多様性の保全を目的とした森林整備活動を開始いたしました。



森林整備活動の実施場所

植生調査を実施し、森のあるべき姿を検討しました

2010年11月には森林の状況を調べる植生調査を実施し、今後の活動方針を検討いたしました。その結果、森林では常緑樹の増加により日光が遮られ、十分な光が届いていないことが判明したため、2011年度は、常緑樹の除伐を活動方針として定めました。林内にはコナラやヒサカキなどのほかに、コバノミツバツツジやヤブツバキといった花をつける樹木も多くあり、彩りのある森林を目指します。

調査は今後も継続的に実施し、活動の評価を行ってまいります。



植生調査

「グローリー夢咲きの森」ではさまざまな花木が見られます



コバノミツバツツジ



ニガイチゴ



ヤブツバキ

「グローリー夢咲きの森」と命名し、活動を開始いたしました

2011年1月には、社内で森の名称を公募いたしました。105件の応募の中から選考を行った結果、「夢が咲く希望のある森になるように」との願いを込めて「グローリー夢咲きの森」と命名しました。

2011年4月には、第1回の活動となる森開きを開催し、当社グループの社員約50名が参加いたしました。森開きに先立って行った記念講演では、前年度に行った植生調査の結果を基に、生物多様性保全の意義や、活動の方針を解説し、活動に対する参加者の理解を深めました。

森開きは植樹と除伐を中心に実施し、植樹では兵庫県産のヤマザクラやコナラなど30本を植えました。続いて行った除伐では、慣れない作業に苦戦しながら、常緑樹の伐採を行いました。参加者からは、「除伐を進めるにつれて、森の中に光が入ってくる様子が爽快だった」「子どもの頃、森の中で遊んだ経験を思い出し、楽しかった」といった声が聞かれました。

当社は、今後も生物多様性の保全を目指し、継続して植樹や森林整備に取り組んでまいります。



植樹活動



森開きでの記念撮影

工場内の緑地を地域の子どもたちに開放しました

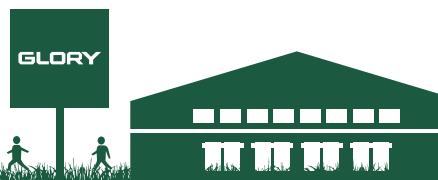
グローリープロダクツ株式会社の佐用工場(兵庫県佐用郡)では、2010年3月、砂利敷きだった構内的一部分に芝生を植え、緑地化いたしました。その後、この緑地を近隣の皆様にも役立てていただこうと、隣接する佐用保育園に通う子どもたちに開放いたしました。2010年度の来訪者数は23回、延べ389名に上りました。2011年度以降も継続して、子どもたちの憩いの場として活用していただきたいと考えております。



春には桜が満開

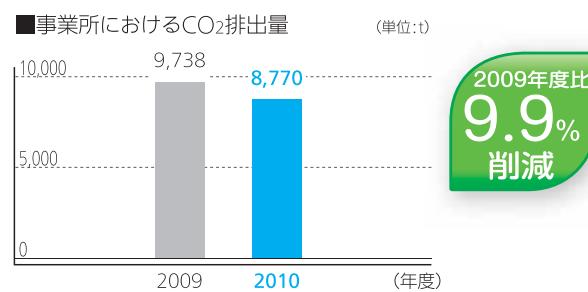


工場の芝生を子どもたちに開放



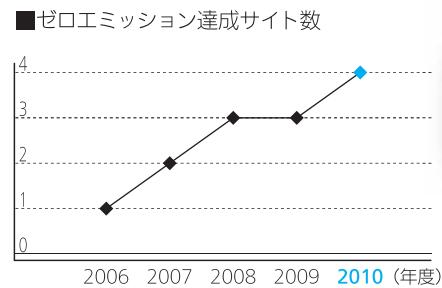
環境データ (2010年度の実績)

省エネルギー・地球温暖化防止



事業所の統合などによってCO₂排出量を削減しました。
2011年度は、LED照明の導入の推進、サーバーの見直しにより、さらなる削減に努めてまいります。

省資源・リサイクル活動



2010年度に活動を開始したグローリーAZシステム株式会社本社・西宮事業所がゼロエミッション※を達成し、合計サイト数は4サイトとなりました。

※ゼロエミッション:再資源比率99.5%以上と定義しております。

法規制順守

当社グループでは、環境関連の法規制の順守を最重要事項としております。社内における監視体制を構築し、年1回、法規制の順守状況を評価する機会を設けております。評価の結果、法の逸脱及び環境汚染がなかったことを確認いたしました。2010年度は、改正省エネ法への対応を徹底し、監督官庁への届出、計画の立案を行いました。また、廃棄物処理法に継続して対応いたしました。

グリーン調達の推進

当社は、環境負荷の少ない部材を購入する、グリーン調達を推進しております。2010年度は新たに、取引先における製品含有化学物質管理体制に関する調査と取引先の訪問調査を実施いたしました。

10社
調査

環境配慮型製品の開発

当社は、製品の環境負荷を評価する製品アセスメントを実施し、当社が定める基準を達成した製品を "グリーン製品" と認定しております。2010年度は、グリーン製品を16機種開発いたしました。「2030年に製品使用時のCO₂排出量を2005年比30%削減」という長期目標の達成に向け、今後もグリーン製品の開発に注力してまいります。

16
機種

●第三者コメント



服部 静枝 氏

京都精華大学
人文学部 総合人文学科
環境未来コース 准教授
環境マネジメントシステム主任審査員

「顧客」「株主」「工場見学者」を環境報告書の読み手として想定されていることで、それを前提にコメントさせていただきます。

各部署における取り組み報告も充実してきました。昨年度の報告書で約束された生物多様性保全活動を本格的にスタートさせ、植生調査と森林整備に着手されたこと、そして、2010年度はグリーン製品をさらに16機種開発されたことなどは高く評価できます。一方、日々の環境活動で取り組まれているにも関わらず、本報告書には記載されていない次の2点について改善をお願い致します。1つは、取り組み内容と実績のみの報告となっており、目標の記述がないこと、2つめは、CO₂排出量以外の環境負荷の実態(事業活動におけるマテリアルバランス)が見えないことです。また、株主が必要とする情報の1つに「リスクへの対応」があげられます。使用済み製品の適切な処分スキームの運営や資産除去債務対応などの汚染予防の取り組みや環境関連事故発生の有無についても開示していただければと思います。

会社概要 (2011年3月31日現在)

商 号 グローリー株式会社
GLORY LTD.

創 業 1918年(大正7年)3月

設 立 1944年(昭和19年)11月

資 本 金 12,892,947,600円

上場証券取引所 東京・大阪証券取引所

市場第一部

従 業 員 数 3,504名

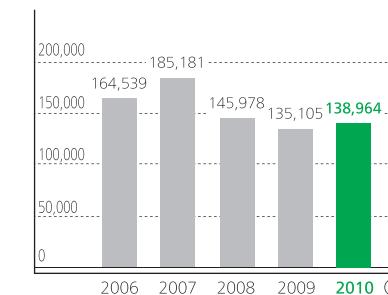
事 業 内 容 通貨処理機、情報処理機、

自動販売機、カードシステム・

サービス機器などの

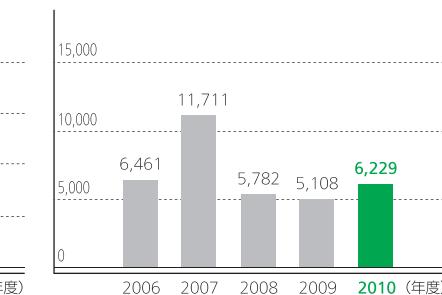
開発・製造・販売・メンテナンス

■売上高(連結)



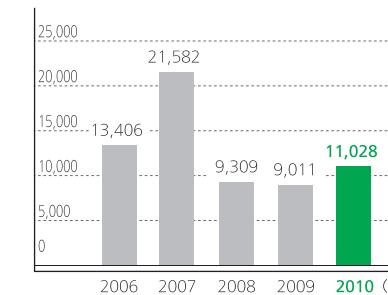
(単位:百万円)

■当期純利益(連結)



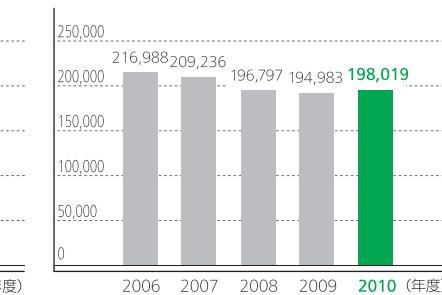
(単位:百万円)

■経常利益(連結)



(単位:百万円)

■総資産(連結)



(単位:百万円)

報告範囲

報告対象組織 グローリー株式会社／本社・本社工場、東京本部、品川事業所、埼玉工場、姫路物流センター、姫路パートセンター、東北支店、東日本支店、首都圏支店、東海支店、近畿支店、中四国支店、九州支店
グローリープロダクツ株式会社／本社・福崎工場、加西工場、佐用工場、市川工場、若井工場
グローリーアZシステム株式会社／本社・西宮事業所
グローリーシステムクリエイト株式会社／本社・東京事業所
グローリーエンジニアリング株式会社 グローリーフレンドリー株式会社 グローリーメカトロニクス株式会社

報告対象期間 2010年度(2010年4月～2011年3月)

発 行 日 2011年6月

報告対象分野 事業活動に伴う環境活動の取組み状況